

越境刑事

著者名： 中山 七里
出版社： PHP研究所

『逃亡刑事』の高頭芽子シリーズ第二弾！
“県警のアマゾネス”の異名を持つ千葉県警の高頭芽子は、留学生の不審な失踪が相次いでいるという噂を耳にする。その数日後、中国国籍で新疆ウイグル自治区出身の留学生カーリの死体が発見された。捜査に乗り出した芽子は、事件に中国公安部が絡んでいることを掴むも、カーリの雇い主のカーディルも殺害される。

掬えば手には

著者名： 瀬尾 まいこ
出版社： 講談社

ちょっぴりつらい今日の向こうは、光と音があふれる。

『幸福な食卓』本屋大賞受賞作『そして、バトンは渡された』に連なる、究極に優しい物語
私は、ほくは、どうして生まれてきたんだろう？
大学生の梨木匠は平凡なことがずっと悩みだったが、中学3年のときに、エスパーのように人の心を読めるという特殊な能力に気づいた。ところが、バイト先で出会った常盤さんは、匠に心を開いてくれない。常盤さんは辛い秘密を抱えていたのだった。だれもが涙せずにはいられない、切なく暖かい物語。

木曜日にはココアを (文庫)



著者名： 青山 美智子
出版社： 宝島社

わたしたちは、知らないうちに誰かを救っている——
川沿いを散歩する、卵焼きを作る、ココアを頼む、ネイルを落とし忘れる……。
わたしたちが起こしたなにげない出来事が繋がっていき、最後はひとりの命を救う。
小さな喫茶店「マーブル・カフェ」の一杯のココアから始まる12編の連作短編集。
読み終わった後、あなたの心も救われるやさしい物語です。

その本は

著者名： 又吉 直樹・ヨシタケ シンスケ
出版社： ポプラ社

本の好きな王様がいました。王様はもう年寄りで、目がほとんど見えません。二人の男に世界中をまわって『めずらしい本』について知っている者を探し出し、その者から、その本についての話を聞いてきてくれ。そしてその本の話のをわしに教えてほしいのだ。旅に出たふたりの男は、たくさんの本の話を持ち帰り、王様のために夜ごと語り出した。お笑い芸人で芥川賞作家の又吉直樹と、大人気の絵本作家ヨシタケシンスケによる、抱腹絶倒・感涙必至の本の旅！

汝、星のごとく

著者名： 凧良 ゆう
出版社： 講談社

その愛は、あまりにも切ない。正しさに縛られ、愛に呪われ、それでもわたしたちは生きていく。本屋大賞受賞作『流浪の月』著者の、心の奥深くに響く最高傑作。——わたしは愛する男のために人生を誤りたい。風光明媚な瀬戸内の島に育った高校生の暁海(あきみ)と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた権(かひ)。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

嘘つきジェンガ

著者名： 辻村 深月
出版社： 文藝春秋

詐欺をめぐる3つの物語。『2020年のロマンス詐欺』

まさか、こんな2020年の春が待っているとは思いませんでした——大学進学のため山形から上京した「加賀耀太」だったが、4月7日、緊急事態宣言が発令されてしまう。入学式は延期され、授業やサークル活動どころか、バイトすら始められない。そのうえ、定食屋を営む実家の売り上げも下がって、今月の仕送りが半分になるという。地元の友人「甲斐斗」から連絡が来たのはそんなときだった。「メールでできる簡単なバイト」を紹介してくれるというのだ……

いつもの木曜日

著者名： 青山 美智子
出版社： 宝島社

2021年、2022年本屋大賞2位受賞作家・青山美智子さんが贈る『木曜日にはココアを』に繋がる温かな物語。累計26万部を突破した『木曜日にはココアを』。その12編の物語に登場したワタル、朝美、えな、泰子、理沙、美佐子、優、ラルフ、シンディ、アツコ、メアリー、そしてマコ。これは彼、彼女たちがあの日に会う前の物語。そんな前日譚を田中達也さんが作ったミニチュアとともに読む、絵本のような小説です。カップにココアが注がれるその瞬間を味わってください。

先祖探偵

著者名： 新川 帆立
出版社： 角川春樹事務所

ひとりでも寂しくない。私はもっと、強くなる。「あなたのご先祖様を調査いたします」
風子は、母と生き別れてから20年以上、野良猫のように暮らしてきた。東京は谷中銀座の路地裏で、探偵事務所をひらいている。「曾祖父を探してください」「先祖の霊のたたりかもしれないので、調べて」など様々な、先祖の調査依頼が舞い込む。